

## 国立競技場将来構想有識者会議（第3回）議事録

日 時：平成24年11月15日（木）16：00 ～ 17：00

場 所：グランドアーク半蔵門 4F 富士の間

出 席：佐藤委員長、安藤委員（建築グループ座長）、小倉委員（スポーツグループ座長）、  
都倉委員（文化グループ座長）、鈴木（秀）委員、竹田委員、張委員、森委員、  
秋山氏（石原委員代理）、尾懸氏（河野委員代理）、伍藤氏（鳥原委員代理）、  
奥田氏（鈴木（寛）委員代理）  
文部科学省 久保スポーツ・青少年局長  
国土交通省 佐藤都市局官房審議官  
JSC 河野理事長、藤原理事

**審議事項1 新国立競技場基本構想国際デザイン競技の審査結果について**

**審議事項2 今後のプロセスについて**

**審議事項3 その他**

《以下議事録》

【河野理事長】 それでは、定刻ですので、会議を始めさせていただきたいと思います。

審議に先立ちまして、本日ご出席いただいております委員の先生方をご紹介させていただきます。佐藤禎一委員長でございます。

### ●河野理事長から出席委員の紹介

佐藤禎一委員長、安藤忠雄委員、小倉純二委員、森喜朗委員、都倉俊一委員、張富士夫委員、竹田恒和委員、鈴木秀典委員、石原慎太郎委員の代理の秋山副知事、河野洋平委員の代理の尾懸日本陸上競技連盟専務理事、鳥原委員の代理の伍藤日本障害者スポーツ協会副会長、鈴木寛委員の代理の奥田氏（委員の紹介は終了）

### ●河野理事長から列席者の紹介

文部科学省久保公人スポーツ青少年局長、国土交通省佐藤憲雄都市局官房審議官、日本

スポーツ振興センターより理事の藤原が出席させていただいております。

それでは、初めに久保局長より一言ご挨拶いただければと思います。よろしくお願いいたします。

●久保局長あいさつ

【河野理事長】 どうもありがとうございます。

大変恐縮ですが、本会議は非公開とさせていただいておりますので、報道関係者の皆様におかれましては、恐縮ですがご退場願えればと思います。よろしくお願いいたします。

(報道関係者 退室)

【河野理事長】 それでは、本日の議事につきましては、お手元の議事次第に沿って進めさせていただきたいと思っております。それでは、佐藤委員長、よろしくお願いいたします。

【佐藤委員長】 本日はご多忙の中、お集まりをいただきましてまことにありがとうございます。第3回目の会議になります。本日の審議に当たり、一言御礼を申し上げたいと存じます。

審議事項にございますとおり、7月20日から募集を開始いたしました新国立競技場基本構想国際デザイン競技につきましては、日本を初め世界各国から46点の応募を頂戴いたしました。これまでの間、安藤委員長をはじめ小倉委員、都倉委員、そのほか審査委員の皆様方には審査委員会においてお忙しい中、ご審査をいただいたことに対しまして厚く御礼を申し上げるところでございます。

早速審議に入らせていただきますが、次第にございますように、本日の審議事項は大きく分けて2つでございます。第1は、新国立競技場基本構想国際デザイン競技の審査の結果を確定することでございます。審議の2は、今後のプロセスについてお諮りをするところでございます。

審議に入ります前に、事務局から配付資料の説明をいたします。

●事務局（武本本部長）による資料の確認

【佐藤委員長】 ありがとうございます。

それでは、早速、審議事項の1、新国立競技場基本構想国際デザイン競技の審査結果に

ついてご協議を申し上げたいと存じます。

先ほど申し上げましたとおり、世界各国から46点の応募があり、審査委員会におきまして10月16日に一次審査、11月7日に二次審査が行われたわけでございます。本日はこの審査委員会において選定されました最優秀候補作品3点につきまして、最優秀賞、優秀賞、入選にかかるご審議をいただき、3賞の決定をいたしたいと存じております。お手元にはこれらの作品を資料1として、また、審査の講評資料を2として配付をさせていただいております。

それでは、資料をごらんいただきながら、審査委員会の委員長を務めていただきました安藤委員から、審査の結果の報告と講評をお願い申し上げたいと存じます。よろしく願いいたします。

【安藤委員】 今、説明にありましたように、46点の中から何段階かに分けまして、ちょうど3点を残しながら、最優秀賞、優秀賞、入選案というのを決めさせていただきました。

46点の中でかなり難しいけれども新しい提案のあるものもありましたけれども、この3点におきましては、現実的に一番大きな問題は2019年を目指してスケジュールがいくかどうか。そして技術的な問題とコスト的な問題と機能がうまく重なり合うことができるかどうかということの検討をいたしました。

まず、最優秀案から見ていただきたいと思っております。この最優秀案はザハ・ハディドというイギリスに在住するイラクの建築家です。女性の建築家です。この建築をまず見ていただきますと、直感的におわかりになるだろうというふうに思いますが、スポーツに必要な、大変躍動感のある形をしているのではないかとと思われると思いますが、まず、この流線型の形をした躍動感のある建築は、都市の中でスポーツを行うという意味では大変イメージがいいのではないかと思います。

同時に、大変大きな建造物なのですけれども、構造をどのように作り上げていくかということと、内部でスポーツをするということにおける内部空間との関係も非常にうまくいっているのではないかとというふうに思いました。

また、この建築は全体の都市との関係から言いますと、都市のシンボルとして日本の国が21世紀、ちょうど1964年のオリンピックのときに、今の代々木の体育館を見て多くの人たちが驚きますが、世界中の人たちが日本の国はすごいと。あの国は1945年の敗戦の後、これだけのものを立ち上げてきたんだということについて感動したわけであり

ますけれども、現在の日本というのは少し沈滞をしております。この中でこの建物をつくることによって、1964年のオリンピックのころのような、いわゆる躍動感あふれる日本の国を表現できるのではないかとことを考えまして、この案にいたしました。祝祭性といいますか、お祭りの中で、世界中の人たちがこのスタジアムでぜひ競技をしてみたいと思う、世界中の人たちがぜひ行ってみたいと思う空間としては一番いいのではないかとこのように思いました。

また、この建築はかなりスケールが大きいのと同時に、技術的な課題もたくさんあります。そのような課題を解決できるのは日本の国の土木建築技術力でしかなかつくり得ないようなところがたくさんありまして、そういう意味では日本の建築技術、土木技術、そして日本の技術力というものを世界にアピールするという意味でも非常に、これをつくり上げていくということになれば、日本の多くの国民の人たちもこれに心から参加できるのではないかとこのようにすることも、これを選定した理由であります。

同時に、例えば太陽光の問題であるとか、自然光の問題であるとか、地中のエネルギーの問題とかいうようなことを含めて、それを利用するという意味では、今までになかった建築のエネルギーの問題も解決できるのではないかとこのようにすることも含めて最優秀案にいたしました。この点につきましては、かなり討議はありましたけれども全員一致で、このすばらしい案を押し進めていこうではないかとこのことで決定をいたしました。

これは、遠くから見たところで、これは内部空間でありますけれども、これならば芝もうまくいくだろうと。開閉の技術もうまくいくだろうと。しかし、課題はたくさんあります。これだけ大きなスケールのものを世界中はつくったことがありませんので、この技術はこれから設計者と、同時に基本設計者、実施設計者を選びますけれども、これは入札によって選ばれるわけですが、その人たちとのしっかりしたコミュニケーションの中でつくり上げていかなければならないというふうに思っています。

次に、優秀案には、コックスというオーストラリアの建築グループが選ばれたのですが、遠くから見るとかなり巨大なものであります。透明感のある、具体性に富んだこの建築は、具体的に機能性と建築技術的な問題と、実現性においては非常に大変高いのではないかと。今回においては最優秀案よりも具体性ではこちらのほうが高いのですけれども、我々はスポーツというのは挑戦すると、可能性に挑戦するという意味では最優秀案のほうが、それに日本の技術者が立ち向かっていくという意味ではいいのではないかとこのことで最優秀案とはなりません。そして、この実現性のある、ある面では臨場感も

ありますし、屋上庭園等も含めて大変魅力的な案がたくさん織り込まれています。また、ホスピタリティの問題等も提案がありまして、ある意味では国立競技場としては問題ないというふうに思いましたけれども、こちらよりも最優秀案のほうが大変魅力的であるという意味で最優秀案を選びました。

同時に、最優秀案も優秀案も、いわゆる開閉式でありますので、これから解決していかなければいけない課題がたくさんあると思います。

入選案は、最優秀案と同時に珍しく女性でありまして、これはSANA Aという、妹島和世さんという日本の女性と日建設計の案でありますけれども、ここでも非常に、いわゆる流れのある、そして都市になじむ、ある面ではこの案は一つ、都市空間の中のなじみとしてはうまくいくのではないかと思いますけれども、ダイナミック性とか力強さという意味では最優秀案のほうがよかったのではないかと。この案もなかなか新しい時代の新しい形の建築なのではないかというふうに思いました。

大変、曲面を多用しながらリズムカルな建築になっています。そして、軽々とした屋根が大変魅力的で、大変特徴的なんですけれども、この特徴的で魅力的な屋根が、ひょっとして競技場として、人々の意識を真ん中、いわゆる競技をしている人たちに集中できないのではないかと言う人たちもたくさんいましたし、私もそのように思いました。そういう面で、都市的には大変魅力があるけれども、競技場としてどうなんだろうかという疑問があり、最優秀案のほうに点数が行きました。また、この曲面は、屋根の仕上げ、屋根の構造等についても無理があるのではないかとということと、開閉式ということを考えてみますと、この曲面の中にあの大きな屋根をすっぽりうまくおさめ込めるのかなというような疑問がたくさんありましたけれども、全体的に設備の問題、構造の問題、そしてあらゆる新しい提案においては大変緻密に計画をされているように思いましたけれども、最優秀案には追いつかなかったというふうに思います。

全体的にこのような形で最優秀案、優秀案、そして入選案を決めさせていただきましたけれども、これからこれを基本設計し、そして実施設計し、工事が始まるまでは難問が幾つか出てくるだろうというふうに思いますけれども、このあたりを委員会の人たち、そして基本設計をする人たち、実施設計をする人たちと徹底的に討論をしながら進めていきたいというふうに考えております。

ありがとうございました。

【佐藤委員長】 安藤委員、ありがとうございました。

ただいまの審査の講評にもございましたけれども、審査の過程で多くのご議論もございましたようですし、また、実現に向けて幾つかの課題を克服する必要もあろうかと存じます。ただ、我が国のテクノロジーを駆使したチャレンジになるということで、国家プロジェクトとしてふさわしい選定になったようには思っております。

それでは、ただいまの安藤座長のお話ございましたけれども、委員の皆様からご意見をいただきたいと存じますが、まず、審査委員会に参加をしていただきました、スポーツ利活用の小倉座長から一言お願いをいたします。

【小倉委員】 小倉でございます。今、安藤審査委員長がご説明されたとおりでして、委員会として非常に真剣な議論が行われ、その中で最終的には日本を元気づけるデザインはこれしかないという結論になったわけです。

スポーツのほうの側としては、いろいろな競技団体のご意見も伺って、この中で生かせるという結論になっております。ただ、これから基本設計並びに実施設計の段階で、芝の管理であるとか、問題についてはこれからよく詰めていくということになっております。

【佐藤委員長】 ありがとうございます。

続きまして、文化利活用の座長、都倉委員からお願いいたします。

【都倉委員】 小倉座長とあまり変わった意見ではないのですが、私個人としてこの建物に票を入れたのは、やはり何とんでもこの圧倒的な存在感と、そして神宮の森にそびえ立ったときのこの美しさというものを感じ、この国立競技場は今の国立競技場と同じように50年間、100年間、使っていかなければいけない建物でございます。ある意味では日本のシンボルみたいな建物になるのではなかろうかということでございます。

ただ、小倉座長もおっしゃっていたように、これからは機能性という意味では、この建物、巨大な建物をスポーツと文化と両面でどういうふうに使っていくかと。使う上でどういう機能性を持たせるかということは、細部にこれから詰めていかなければいけない、技術的にも課題がいろいろあるのではなかろうかと思いますが、安藤委員長の専門的なご意見でそれは解決可能であると。特に芝の育成、そしてコンサートとか催しものをするときに、その芝をいかに養生し、また大切に、それも経済的にできるかと、こういう問題がこれから検討材料としては残っておりますが、全体的にこのデザインに関して、この美しさに関しては審査委員会一致で選ばせていただいたというふうに思っております。

ありがとうございます。

【佐藤委員長】 どうもありがとうございます。

では、引き続き、委員の皆様方から一言ずつご意見を頂戴したいと存じております。

それでは、日本体育協会の張会長、お願いをいたします。

【張委員】 これ、見た目には素晴らしいので、こういうものがほんとうにできたらすごいなと、こういうふうに第一印象で感じましたが、先ほどのご説明で、これ、日本の建築技術とか土木技術じゃなきゃできない、とのことでございますので、それだったらぜひ、この絵に近いものをつくり上げていただきたいと。さっきのお話にも出ましたように、50年、100年、次の世代、次の次の世代の人たちが存分に利活用できるようになるっていうのは、これは素晴らしいなと思います。

芝や何かのことは、私は専門ではございませんけれども、私どものトヨタのスタジアム、芝は何回も何回も研究しまして、今、相当いいものができましたので、やはり芝生も研究して、いろいろトライしてみるとやりようがあるんだなという、そういうことを感じていますから、いろいろなところにある知恵っていうんでしょうか、経験を集めれば、たくさんいいものができてくるんじゃないかと、こんなふうに思っております。ぜひ頑張ってくださいと思います。

【佐藤委員長】 ありがとうございます。

では、続きまして、オリンピック招致の観点から竹田会長、お願いいたします。

【竹田委員】 まず、この46の作品を精査されてここまでまとめてこられたJSC、そして安藤先生はじめ関係者の皆様のご苦勞に心から敬意を表したいと思います。

私も46の作品を見せていただいた中で、印象に残っていたものは幾つかあるのですが、やはりこの最優秀賞というのは、その中でもほんとうに躍動感があって、斬新なデザイン、また、インパクトが非常に強かったことを覚えておりました。

2020年、東京オリンピック招致がもし決まって、このスタジアムがメインスタジアムとして世界に発信できたら、ほんとうにこのオリンピックのシンボルとして素晴らしいものになる。

それから、安藤先生のお話を伺って、これをつくり上げる技術がまさに日本の土木あるいは建築の技術でなければできないということをお伺いして、また、まさに最優秀賞を現実的にできたら素晴らしいなということを感じました。

また、優秀賞、そして入選も素晴らしいデザインだと思いますが、この最優秀賞はこの中でも飛び抜けているなという印象をいただきました。

どうもありがとうございます。

【佐藤委員長】      ありがとうございます。

続きまして、アンチ・ドーピング機構の鈴木会長、お願いいたします。

【鈴木（秀）委員】      まず初めに、この大変素晴らしいご選考をいただきましたことに感謝申し上げます。個人的でございますけれども、46、私も実際に拝見させていただきまして、やはりこれが一番印象に残っておりまして、まさにそれと一致して、素晴らしいなというふうに感じた次第でございます。

先ほど、スポーツの躍動感、それから新たな技術の挑戦ということがございました。この新しい施設ということでございますので、ぜひとも我々のアンチ・ドーピングのような新しい分野、これらも含めた新しい施設をつくっていただければと思います。

ありがとうございました。

【佐藤委員長】      ありがとうございます。森委員よろしいですか。

【森委員】      全体としては、皆さんのおっしゃるとおりです。ただ、この全体像46点見たときもそうですが、にマッチするのかなという。これはその次の入選作、SANA A +日建、これもそうで、これ見ていると、神宮の森に庶民的な感覚で、これ、合うのかなという感じをちょっと持ちました。

それから、これは小倉さんも同じだろうと思うのだが、この1番の方、最優秀もそうだし、その次の方も、この絵、両方見ていると、せっかく臨場感あふれるサッカーやラグビーをぐっと近づけて見るという、この可動式なんだろうけど、それにしては随分遊びが多いなど。フィールドの周り、ものすごく遊びが多いでしょう。これだったらあんまり、臨場感がないんじゃないかと。

【小倉委員】      その横、図面から、広い面、長い面は完全に可動の仕組みがおりるように表現されているんです。

【森委員】      じゃあ、これはもっと近くなるっていうことですね。

【小倉委員】      そういうことですね。ゴール裏の可動部分が十分表記されていないので、基本設計の段階でこの部分に可動席を入れるというような形で臨場感を出すということになっています。

【森委員】      色々あるようですが、ほんとうにたくさんの中からよくお選びになって、私も全部見ましたけど、どうやって選ぶんだろうと思って、頭を痛めて見ておりましたが、そのことについてご労苦に感謝をします。

【佐藤委員長】      貴重なご意見は今後の参考にさせていただきたいと存じます。

今日は代理のご出席でございますが、知事の代理の秋山様、お願いいたします。

【石原委員代理（秋山）】 私は代理でございますので、直接、委員である石原慎太郎に確認をいたしましたところ、審査委員長の安藤先生に一任をしたいということで意思決定をいただいております。よろしくをお願いいたします。

【佐藤委員長】 では、河野先生の代理の尾縣様。

【河野委員代理（尾縣）】 同様でございます、河野会長から一任をあくまでまいました。

感想としましては、ほんとうにオリジナリティーが高く、流れるようなフォルムで、記録を後押ししてくれるような気がいたします。

以上でございます。

【佐藤委員長】 ありがとうございます。

それでは、伍藤副会長。

【鳥原委員代理（伍藤）】 素人ですが、この躍動感と同時に、この最優秀作、女性的というか、優美で、優しそうな感じも受けますが、私どもパラリンピックの側からいたしますと、ロンドンで高まったパラリンピックの存在をさらに強める、非常にアクセシブルというか、みんなを受け入れやすいような施設に、これから中身を検討していただければありがたいなと思っております。

【佐藤委員長】 ありがとうございます。

奥田様。

【鈴木（寛）委員代理（奥田）】 ご一任ということの伝言を預かっておりますので、よろしくどうぞ。

【佐藤委員長】 ありがとうございます。

一通りご意見を出していただきましたが、ほかにこの際、ご意見はございませんでしょうか。

よろしければ、審議事項の1につきまして、本会議として審査委員会の審査結果どおりに最優秀賞はザハ・ハディド・アーキテクト、優秀賞はコックス・アーキテクチャー ピーティーワイ エルティディ、入選は有限会社SANA事務所＋株式会社日建設計ということで本会議として決定をするということでよろしゅうございますでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

【佐藤委員長】 ありがとうございます。それでは、そのように決定をさせていただきます。

きます。

【河野理事長】 どうもありがとうございました。今後、事務局におきまして、最優秀賞に今、お選びいただきましたザハ・ハディド・アーキテクトとデザイン監修ですとか、あるいは具体的な条件について協議をして、実際に契約を締結した後で、これを正式な基本構想デザインとして採用するというようになっておりますので、よろしく願います。

また、その契約という観点からは、この順序はいわば契約交渉優先権順というようなところもありますので、万が一の場合には、だんだん下に行くというようなことはあろうかと思いますが、いずれにしても、まずこれをきちんとやっていくことだと思います。

そして、この最優秀賞につきましては、この後で記者会見をさせていただきまして発表させていただきますので、ご承知おき願いたいと思います。

また、最優秀受賞者を対象といたしまして後日、表彰式を行うこととしておりましたけれども、これまで11月下旬もしくは12月ということをお願いしておりましたが、外国に在住の方ですので、少し時間がかかろうかと思っております。おそらく年明けの1月、あるいはそれ以降になるかもしれませんが、ちょっとお時間を頂戴することでご理解いただければと思います。その際はまたご案内申し上げますので、ぜひご参集いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【佐藤委員長】 ありがとうございます。

何よりも来年度予算で所用の経費がつかせんと先へ進めないところがございまして、そういう日時、日程等、多少まだ今のところわかりにくいところがございまして、いろいろな要素を勘案しながら前進をさせていただきたいと存じます。

続きまして審議事項の2、今後のプロセスということでございます。こちらにつきましては、国立競技場の改築に関する想定スケジュールということになりますが、お手元の資料3に沿って、河野理事長からご説明をお願いいたします。

【河野理事長】 それでは、資料の3-1をごらんいただきたいと思います。今もご説明いたしましたけれども、表彰式につきましては具体的な契約面での条件が整ったときに開催するというので、おそらく年明けになろうかと思っております。その際には最優秀賞の受賞者の表彰と同時に、プレゼンテーションもしていただけるように今、考えております。スケジュールの調整の上、またご報告申し上げたいと思います。

また、今後の予定ですが、東京2020オリンピック・パラリンピック招致立候補ファ

イルに最優秀作品のパスを反映するということになっておりますので、これにつきましてもいろいろなやりとりが必要かと思っておりますけれども、急いでやっていきたいと思っております。

また、先ほど、基本設計ということがございましたけれども、1月の末までに基本設計に向けた与条件を整理させていただきまして、そして先に進めていきたいと思っております。その際には、また、今、委員長のほうからもありましたけれども、政府予算に基本設計費がないとなかなか具体になりませんので、今このような状況でございますけれども、何とぞどうぞよろしく願いいたします。

いずれにしても1月の末までには基本設計を発注するための与条件を整理していきたいと思っておりますので、利活用あるいは文化の面から、いよいよいろいろなことについて具体的な与条件を詰める作業になりますので、どうぞよろしく願いいたします。

そういった意味で、各ワーキンググループ等々をこれから開催させていただきたいと思っておりますけれども、これにつきましては、また日程についてご相談させていただければと思います。

それから、その後の基本設計の与条件に加えまして、運営面とか事業計画等の利活用につきましても、基本計画をもとに今後決定していきたいと思っておりますので、これについてもまたご相談申し上げることができればと思います。

それから、資料の3-2が今、申し上げた具体的な想定のスケジュールということになりますのでごらんいただければと思います。資料の中段にございますけれども、国立競技場の改築に当たりまして、明治神宮外苑地区全体を環境の向上を図るための既存の都市計画の見直しを行うこととなります。都市計画の見直しに当たりましては、今月中に関係行政機関へ提出することになる企画提案書に最優秀賞案を反映させるということになろうかと思っております。

参考資料をちょっとごらんいただきたいと思っております。A3のものでございますが、都市計画の見直しを図る範囲につきましては、スクリーンにもございますし、お手元にもございますけれども、7月に開催いたしました第2回有識者会議の際に、都営アパートの敷地を加えるということでこの図面に落としております。それから、青山通り、国道246号線に面するところですね、そこにつきましても追加をしております。これにつきましてもご確認いただければと思います。この案をもとに今後、住民説明会等々を経まして、資料を整えて関係の行政機関へ提出するということとなります。

それから、オリンピック招致関係につきましては、先ほども触れましたけれども、立候補ファイルに掲載するということになりますので、これにつきましてはまた招致、あるいは東京都とも連携をしながら今月中に内容を確定して、印刷が11月下旬までにとということをお伺いしておりますので、1月7日の提出に間に合うように具体的な段取りを進めさせていただければと思っております。

以上、ご説明申し上げました件につきまして何かご説明等ございましたらよろしく願います。

【佐藤委員長】 ありがとうございます。いかがでしょうか。

よろしゅうございますか。なければ、審議の3に参ります。その他でございますが、今後の本会議の日程等につきまして事務局よりご説明がございます。河野理事長、よろしくお願い致します。

【河野理事長】 それでは、先ほどの審議事項2でも触れましたけれども、本会議でデザイン・コンクールの最優秀賞が決定いたしましたので、これをベースに今後、基本設計プロポーザル案の検討として、基本設計を発注するための与条件の整理を行い、この整理ができた段階でまた有識者会議の皆様にはご審議をいただければと思っております。

現時点では、繰り返すようで恐縮ですが、予算編成も終わっておりませんので、その時期等について何とも申し上げられませんが、政府予算案に基本設計が盛り込まれた場合には、本会議の開催を来年の1月末か、この辺は何ともいつごろというのが今の状況で我々のほうも申し上げられないので大変心苦しいのですけれども、また改めてご連絡させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願います。

【佐藤委員長】 ありがとうございます。

以上で本日の審議事項はすべて終了いたしました。ご協力賜わりまして大変ありがとうございました。

私からは以上ですが、河野理事長で、最後に何かございますか。

【河野理事長】 ほんとうに長い期間、また、短いときにいろいろごらんいただく等、日程的にもご無理を言いましたので、ようやくここまで来たという感じがありますが、いよいよこれからが大変力仕事が必要のところかなと思っておりますし、何よりも、先ほど来お話が出ておりますけれども、これから使うところの目線でどういうふうにできるのかというのが勝負どころにもなっていると思います。より具体的なことでご審議をまたいただくことになろうかと思っておりますけれども、どうぞよろしく引き続き願います。

どうもありがとうございました。

【佐藤委員長】 では、閉会いたします。ありがとうございました。